

Q 医療費現物給付への取組について

山中 基充 議員



A 適正受診の必要性の啓発を継続して行う

質問一 福祉3医療費助成事業の償還方式から現物給付方式への変更後の状況について。

二 医療機関へのいわゆるコンビニ受診といわれる状況について。

三 適正な運用への取組について。

答弁一（市長） こども医療費は、平成23年10月診療分から坂戸、鶴ヶ島市内の医療機関等での現物給付を開始した。開始後1年間の扶

助費は、開始前の1年間に対して13・4割増加した。

重度心身障害者医療費とひとり親家庭等医療費は、ともに28年1月診療分から開始した。開始後半

年間の扶助費は、開始前の同期間に対し、重度心身障害者医療費が14・1割の増加、ひとり親家庭等医療費が11・4割の増加である。

二 休日や夜間に救急外来を受診



した件数は、総受診件数の約1割であり、必要かつ適切なものであったと考えている。

三 小・中学校の災害共済給付制度との重複請求の確認、適正受診のチラシの配付等を行っている。今後も適正受診の啓発を行う。

◎その他の質問

一 高齢者インフルエンザ予防接種について

二 高次脳機能障害について

三 公共施設等総合管理計画について

Q 本市における運転免許自主返納は

持田 敏明 議員



A 平成27年度の運転免許証の自主返納数は181人

質問一 本市での運転免許証の自主返納の状況は。

二 最近の高齢者による事故を受け、本市の取組は。

三 自主返納は生活の不便さも伴うが、市の考えは。

答弁一（市長） 27年度の市内における運転免許証の自主返納数は、181人であり、59歳以下が7人、60歳から69歳までが37人、70歳以上が137人である。

二 毎年8月から11月までの第3木曜日に、本市、西入間警察署及び鶴ヶ島自動車教習所の共催で、高齢者のための運転再教育制度であるシルバードライバードック講習会を実施している。最近では、

高齢運転者による事故の増加を受けて埼玉県知事から発信された「高齢者交通事故防止緊急アピール」を市ホームページに掲載した。29年2月号の広報には、交通安全の特集を掲載する予定である。

三 高齢運転者の自動車事故は増加が予想される。市では、高齢社会を見据え、既に70歳以上の高齢者に対し、つるバス・つるワゴンの運賃が100円になる特別乗車証を交付している。今後も関係機関と連携を図り、高齢運転者の自動車事故防止対策の推進に努める。

◎その他の質問 本市における生活保護制度の現状は

